

八ヶ岳 冬期山行報告

2日目 (12月28日)

オーレン小屋→夏沢峠→箕冠山→根石小屋 (ここで撤退) →箕冠山→オーレン小屋→コル→峰の松目→コル→オーレン小屋

起床	04:30	
オーレン小屋		06:40 発
夏沢峠	07:00 着	07:05 発
箕冠山	07:55 着	08:00 発
根石小屋	08:10 着	08:25 発
箕冠山	08:45 着	
オーレン小屋	09:30 着	10:50 発
コル	13:10 着	13:20 発
峰の松目	14:30 着	15:20 発
コル	15:50 着	
オーレン小屋	16:30 着	(冬期小屋泊)

4時半起床。のんびり支度をして、6時半に暗い中を出発した。夜中は満天の星だったが、ガスがかかっている。夏沢峠に出ると、展望どころかすぐ近くの硫黄岳も見えない。天狗岳を目指して樹林の中を進む。トレースがついているので問題はなかったが、箕冠山を超え、樹林帯から出たとたんに西から横殴りの強烈な風が吹き付ける。おまけに小雪が吹き付けて視界が悪い。根石小屋前まで下ったが、ときどき煽られてよけるほどの強風と足元が見づらいほどの視界不良では東天狗岳の手前の痩せ尾根の岩稜帯は危険と判断して、引き返すことにした。

箕冠山からは直接オーレン小屋に下るルートを進んだが、こちらもトレースがついていて迷うようなところはなく、無事小屋に戻った。



暗い中、天狗岳を目指して出発



夏沢峠





箕冠山



樹林帯を出たとたん、雪混じりの横殴りの風が吹き付ける



根石小屋の前。ここで引き返すことに。



箕冠山に戻った。ここで、これから天狗岳を超えるという夫婦とすれ違った。



箕冠山から直接オーレン小屋に下る道



オーレン小屋に戻った



オーレン小屋の冬期小屋の中。映っているのは同宿だった単独行の人。

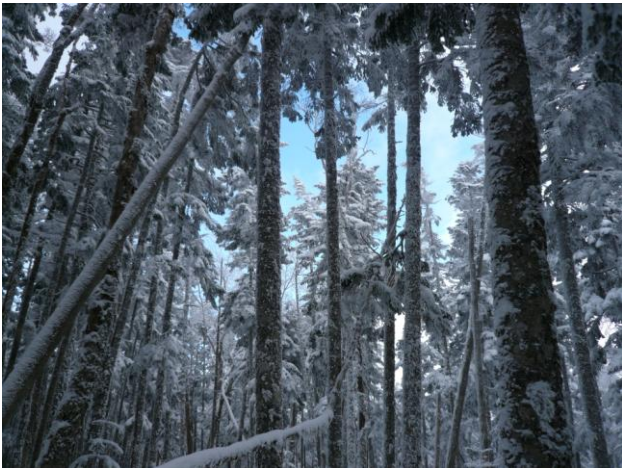
天候が予想に反してよくないが、樹林帯の中をラッセルするには問題ないだろうということで、峰の松目を往復することにした。腹も空いたので小屋でゆっくり食事をして、11 時前に小屋を出発。赤岩の頭へ向かう道にはうっすらと人間のトレースがついていて、さらにその上にカモシカのトレースがついていたので、ワカンを履いて歩いていたとはいえ、とても歩きやすかった。峰の松目への分岐あたりで上を見上げると、青空が少し覗いていた。天気が好くなりそうな気配だった。



峰の松目を目指して出発。峰の松目の山頂（中央）は雲の中。



赤岩の頭・硫黄岳方面と、峰の松目方面への分岐点



青空が覗き始めた。天気が好くなりそうな気配。

分岐から人間の足跡も動物の足跡もなくなり、膝下の深さのラッセルとなる。初めは傾斜が緩かったものでそれほど困難は感じなかったが、次第に傾斜がきつくなり、雪の量も増えて腿までのラッセルとなり、進むスピードがガクッと落ちる。金子先生と私が交代でラッセルしながら進む。赤テープのマークがしっかりとつけてあるので、全く迷うことはなかった。

息をつくたびに上を見上げると、きれいな青空が広がっていて、凍りついたさまざまな形の樹の枝が光り輝いていて、ついつい見とれてしまう。峰の松目山頂からも雲がとれて、真っ白な姿を現していた。夏なら 40 分の道に 2 時間 20 分もかかって、ようやく峰の松目直下のコルに到着した。





次第に雪が深くなる。まん中がルート。



トップでラッセルする金子先生



青空がさらに広がってきた



ラッセルする私



樹や枝に赤テープのマークがしっかりつけてあった





目指す「峰の松目」の山頂



蓼科山



峰の松目直下のコルに到着。峰の松目と反対方向に尾根を進むと、赤岩の頭経由で硫黄岳に行く。

コルから峰の松目山頂まで急登となる。少し登ると、東南の方角が少しだけ開けたところがあった。目の前に阿弥陀岳が大きい。遠くには南アルプスも見える。ずっと樹林帯なので展望は全く期待していなかっただけに、この展望はすごくうれしかった。

さらに急斜面を登って行くと、木々の間から、赤岳や横岳、硫黄岳がときどき見える。何箇所か眺めのいい場所があったが、阿弥陀岳～硫黄岳まで南八ヶ岳の主稜線が屏風のように目の前に連なっているのを真横から眺める形で、本当に素晴らしい景色だった。

斜面が急なため、雪は少なくなったが、歩きにくくて少してこずる場所もあった。2時半、峰の松目山頂に到着。樹林に囲まれた静かな山頂だった。



阿弥陀岳と南アルプス



横岳も姿を現した



南アルプス遠望。右から仙丈ガ岳、甲斐駒ヶ岳、北岳。



樹林の間から眺める赤岳（左）と阿弥陀岳（右）



枝の間から硫黄岳を覗き見る





赤岳から横岳の稜線



横岳の全貌。大同心が立派（中央やや上のピラミッドのような出っ張り）。



硫黄岳（左）と赤岩の頭（中央）



硫黄岳と赤岩の頭。この景色を見て、赤岩の頭から手前に延びる尾根をどうしても歩いてみたくなった。



樹林に囲まれた峰の松目山頂



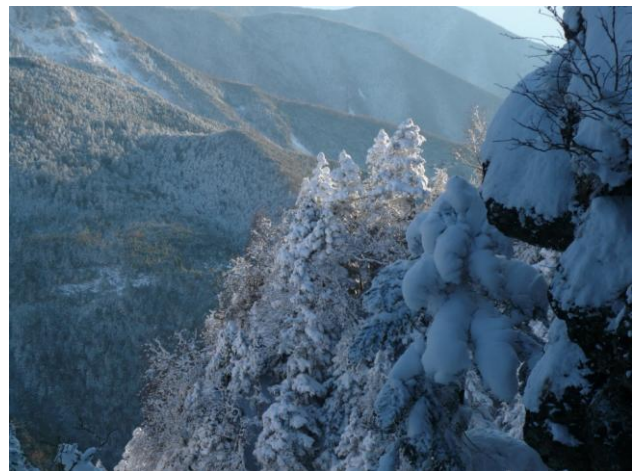
展望はないが静かで雰囲気の良い山頂で1時間近くゆっくり休憩してから、引き返すことに。

下りは楽だった。景色を楽しみながらのんびり歩いたが、30分でコルに着いてしまった。





西天狗岳（左）と東天狗岳（右）

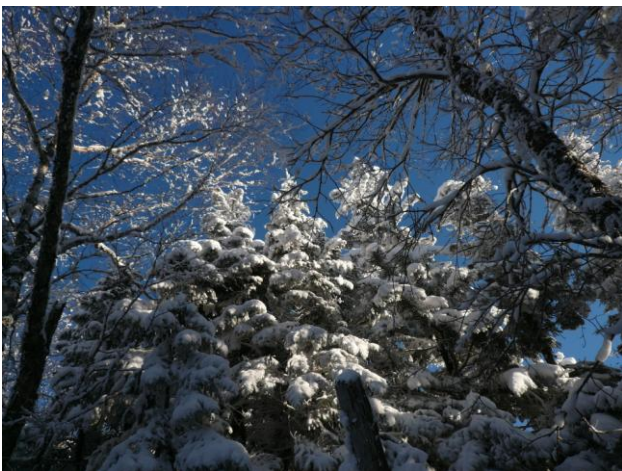
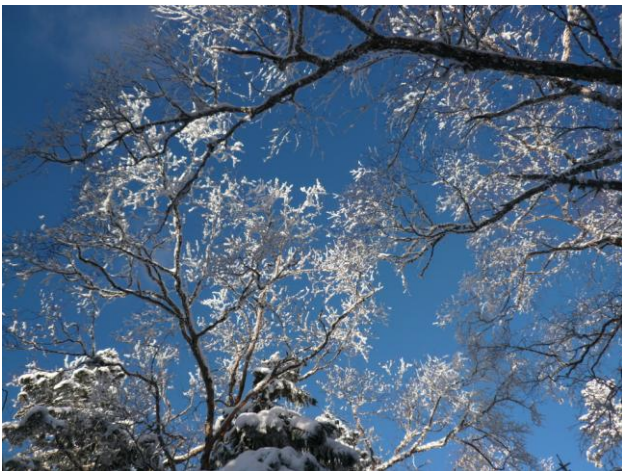




分岐になっているコルまでわずか30分

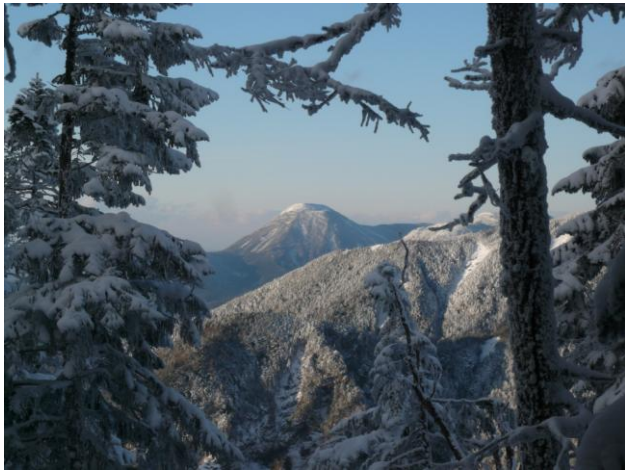
分岐になっているコルから登りで苦労した道を下るが、これも登りの苦労がうそのように快適で、頻繁に立ち止まっては景色を眺めたり写真を撮ったりしたにもかかわらず、40分であっけなく小屋に着いてしまった。

この夜、小屋に泊まったのは私たちだけだった。



西天狗岳





蓼科山



金子先生も写真に夢中



このあたりは登りのラッセルで苦勞したはずだが、下りはあっけなかった

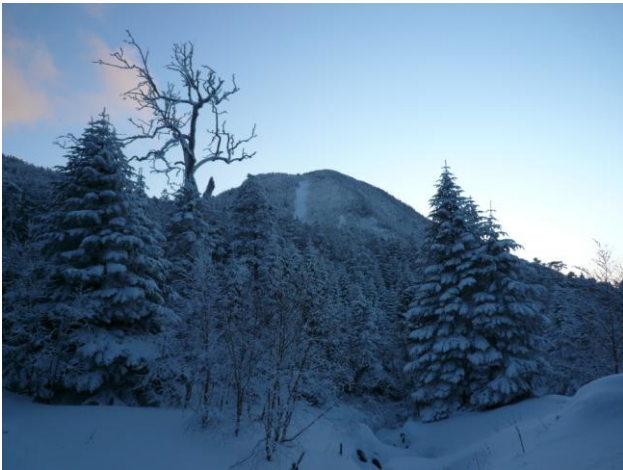




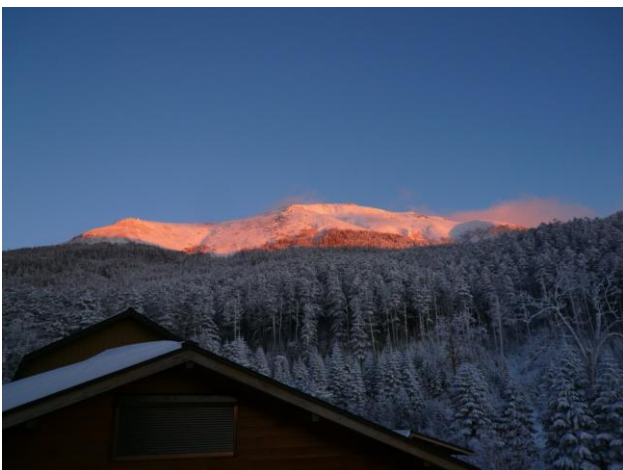
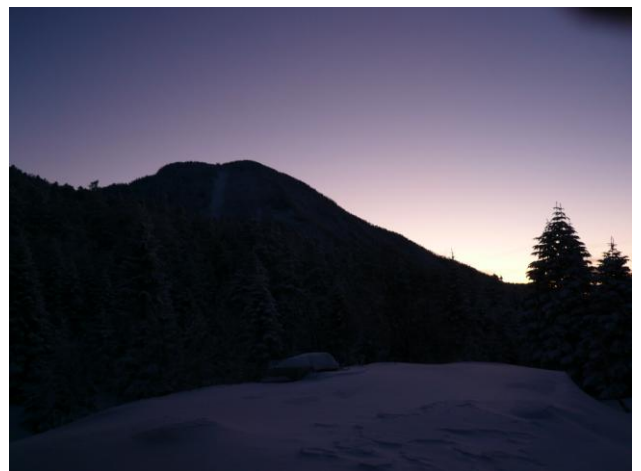
わずか 40 分でコルから下ってきてしまった



夕焼けの硫黄岳



峰の松目



この日は私たちだけだった